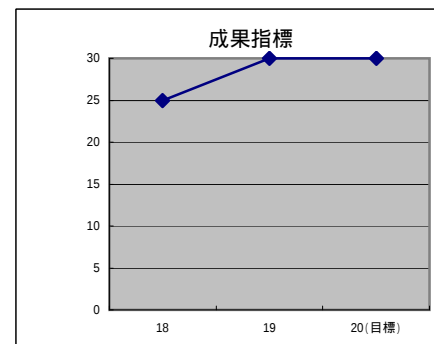
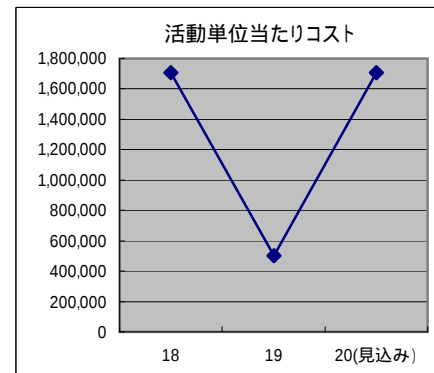


事務事業名		国内都市交流事業		予算科目	会計	1	一般会計	
					款	2	総務費	
					項	1	総務管理費	
					目	16	市民協働費	
					事業	40	都市間交流	
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	4	魅力ある地域社会を拓く活力あるまち		作成部署			
	施策(節)	8	観光振興・都市交流		市民人権部市民協働ふれあい課			
	施策の方向	(4)	都市間交流の充実		連絡先			
関連する計画等				連絡先		072 - 958 - 1111 内線 1080		
事業の目的	対象(誰を・何を)							
	三市(三重県亀山市・奈良県御所市・大阪府羽曳野市)の市民							
	意図(どういう状態にしたいのか)							
事業の内容	文化・産業など幅広い分野で相互交流を図る。							
	○日本書紀の日本武尊・白鳥伝説を縁に、三重県亀山市・奈良県御所市・本市の三市で、年1回市民交流事業の実施							
根拠法令等		三市交流の合意書						
事業開始時期		☐ 昭和 ☒ 平成 10 年 月開始 ☐ 明確にはわからない		終了年度		平成 年度		
事業開始時からの状況変化								
市民や議会の要望								
実施手法		☒ 直営 ☐ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助金・助成金 ☐ その他()						
委託先		☐ 外郭団体委託	名称	委託内容				
		☐ 民間委託						

区 分		18年度	19年度	20年度
		(実績)	(実績)	(見込み)
事業費【1】 (千円)		26	80	365
人件費【2】 (千円)		1,680	420	1,344
職員数	正規職員	0.20 人	0.05 人	0.16 人
	再任用職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	嘱託職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	臨時職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	超過勤務(参考) (時間)	0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間
総事業費(【1】+【2】)【A】 (千円)		1,706	500	1,709
財源内訳	国費 (千円)			
	府費 (千円)			
	市債 (千円)			
	その他 (手数料・使用料等) (千円)			
	一般財源 (千円)	1,706	500	1,709
活動指標(事業の活動実績)【B】 単位		18年度	19年度	20年度(目標)
三市交流事業開催回数 回		1	1	1
活動単位当たりコスト(【A】/【B】)		1,706,000 円	500,000 円	1,709,000 円
市民1人当たりコスト(【A】/人口)		14 円	4 円	14 円



成果指標 (事業目的の達成度を測る指標)	指標名		指標設定の考え方		平成18年度	平成19年度	平成20年度
	式)	三市交流事業参加者数(人)			目標	30	達成率(%)
					実績	25	100.0%
	式)				目標		達成率(%)

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性	分析・評価の説明
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有	交流人口を増加させる三市の特徴を活かした事業であるため必要である。
								○	○		

視点	分析のためのチェック点			分析・評価の説明		
	はい	いいえ	該当なし			
妥当性	市民ニーズが高い	☒	☐	☐	毎回「テーマ」を設定して、三市の市民間において意見交換／情報交換をしている。	
	市民ニーズに比較してサービスの供給過剰となっていない	☒	☐	☐		
	社会情勢の変化に対応している	☒	☐	☐		
	他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☐	☒	☐		
	国・府の事業と重複していない	☒	☐	☐		
	事業を休止、廃止した場合の影響度が大きい	☐	☒	☐		
	緊急性が認められる	☐	☒	☐		
効率性	単位コストが適切である(経年、他市比較など)	☐	☒	☐	行政が主体となった市民交流がされているため、単発的な取組みとなり、事業目的から見ると非効率である。	
	受益者負担の割合は適当である	☐	☐	☒		
	人員を削減する余地がない	☒	☐	☐		
	事業費を削減する余地がない	☒	☐	☐		
	簡略化できる方法や手段がない	☐	☒	☐		
	市の他事業と重複していない	☒	☐	☐		
	民間活力(民間委託、NPO、ボランティア、PFIなど)の活用について検討の余地がない	☐	☒	☐		
有効性	上位の施策(目的)が明確である	☒	☐	☐	歴史豊かな本市のまちづくりに有効にはたらく事業である。	
	上位の施策(目的)への貢献度が高い事業である	☒	☐	☐		
	成果を向上させる余地がない	☐	☒	☐		
	市民の視点にたってサービスが提供されている	☐	☒	☐		
協働性	事業の企画、立案に市民が参加している	☐	☒	☐	一部の市民の参加にとまっている。	
	事業の実施に向けて、市民と情報の共有が図られている	☒	☐	☐		
	事業の実施について積極的に市民の意見を反映している	☐	☒	☐		
	事業の実施に市民の参加、協力が得られている	☐	☒	☐		
達成度	成果指標の目標値は適正である	☒	☐	☐	予定通りの参加者が得られている。	
	成果指標の実績値は目標値以上である	☒	☐	☐		
	成果指標は前年度より向上している	☒	☐	☐		

担当 部局 評価	総合評価
	☐ 拡大・充実 ☐ 現状維持 ☒ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了
	評価の理由
	現状のやり方では、事業の拡がりが見出せない。事業に対する三市の温度差がある。
	今後に向けて(取組方針、具体的な改善改革案など)
	協定書締結を視野に入れて、市民の自主的な交流が図れるよう、テーマを同じくする市民公益活動団体同士の交流などを検討する。